

# 大学体育におけるラーニング・ポートフォリオの活用 ～筑波大学 e ラーニング学習管理システム 「筑波大学 Moodle」を利用した取り組み～

吹田真士, 榎本靖士, 金谷麻理子, 鍋山隆弘, 松元 剛,  
秋山 央, 奈良隆章, 岡出美則<sup>1)</sup>, 寺岡英晋<sup>2)</sup> 山田幸雄

## 1. はじめに

SPERT プロジェクト最終年度において、成績評価に関するタスク委員会が立ち上がった。

大学体育における成績評価の規準はどうあるべきか？また、その基準づくりをどのように策定していくのか？を議論し、一つの方向性を導くことを課題としてきた。大学体育における成績評価規準・基準については、未だ確立されている状況にはなく、早急な対応が求められている。

2012年3月に公表された中教審大学教育部の「予測困難な時代において生涯学び続け、主体的に考える力を育成する大学へ（審議まとめ）」では、学士課程教育の質的変換を求め、質を伴った学習時間の実質的な増加・確保による学生の主体的な学びの確立を第一歩と位置付けている。

近年、主体的な学びを行って行くために必要な能力として、「振り返り」が注目されている。こうした振り返りを促すツールとして、「ポートフォリオ」に関心が集まっている。この「ポートフォリオ」を授業の中で作成させることは、学生に対して自己の学習の成果や課題について振り返ることを促し、教員に対しても自己の授業の成果や課題について振り返ることを促すと考えられている。しかし、授業の中でこれらを

実施することは煩雑さを伴うとともに、講義あるいは実技の時間を削りかねない。

ポートフォリオを活用するにあたっては、クラウドコンピューティング（クラウド）を活用した事例も報告されている。クラウドとは、データをインターネット上に保持するやり方であり、教員と学生、あるいは事務官とデータを共有するグループウェアのような使い方もある。ポートフォリオのフィードバックは、ややもすると教員の負担度増と考えられがちであるが、クラウドの電子ポートフォリオを利用することで、煩雑さがなくなる等、そのメリットは大きい。

筑波大学では、平成22年8月からeラーニングの中核となる学習管理システム（LMS）として、オープン・ソース・ソフトウェアである「Moodle」を導入し、筑波大学eラーニング学習管理システム（以下「筑波大学 Moodle」という。）を運用している。ここでは、この「筑波大学 Moodle」を利用した授業展開例を報告し、授業の質的あるいは量的保証の可能性について考えたい。

1) 筑波大学体育系

2) 筑波大学大学院博士前期課程人間総合科学研究科体育専攻

## 2. 「Moodle」の利用方法

### 1) 「Moodle」の操作方法

#### (1) ログインについて

web ブラウザを起動し、アドレスバーに以下のURLを入力して「Enter」キーをクリックする。

<http://www.moodle.tsukuba.ac.jp/>

画面中央の、「筑波大学 Moodle へのログイン

はこちら」をクリックすると、「2. ログイン画面」に移動する。

図は、筑波大学 Moodle にログインするための画面である。画面中央に統一認証のアカウント・データ（ユーザ名、パスワード）を入力し、「ログイン」ボタンをクリックする。

ユーザ名は13桁（職員証裏バーコード下の番号）、パスワードを忘れた場合は、学術情報



日本語 (ja)

メインメニュー

Moodle Archivet

お問い合わせ

ようこそ筑波大学 Moodle へ!

筑波大学 Moodle では統一認証システムのアカウントを利用しています。学生は学生証名、教職員は職員証名を登録の上、ログインしてください。ゲストアカウントでログインしたい場合は「ゲストとしてログインする」ボタンをクリックしてください。

続きを読む

ユーザ名 0000389182236  
パスワード .....  
ログイン

★ゲストの方はこちらから！  
ゲストとしてログインする



図1 筑波大学 Moodle 「ログイン」画面

メディアセンターへ行き再発行してもらう。

## (2) マイページ (個人情報) 画面

ログインに成功すると、ユーザー毎の登録情報に基づいた「マイページ」が表示される。マイページ画面の中央には「プロフィール」、その下に「マイコース」が表示される。マイコース内には、ユーザーが登録されているコース (開設科目) が全て表示される。マイコースから、開設されているコースを検索する。検索フォームがあり、学士過程の授業はほとんど表示されている。1年次の基礎体育に関してはマ

イコースの登録がない (表示されていない)。この点に関しては後述する。

履修者は「参加者」としてすでに登録されており、そのメンバーのみがこのシステムに参加できる。

基礎体育をマイページに表示させるためには、一時的にコースを開設してもらう方法と、正式に依頼する方法がある。一時的なものは、担当者に直接依頼する。

今回は、履修登録者を送付し、参加者として追加した。正式に依頼する方法としては、マイページ左側「コース開設のお申込み」をクリッ

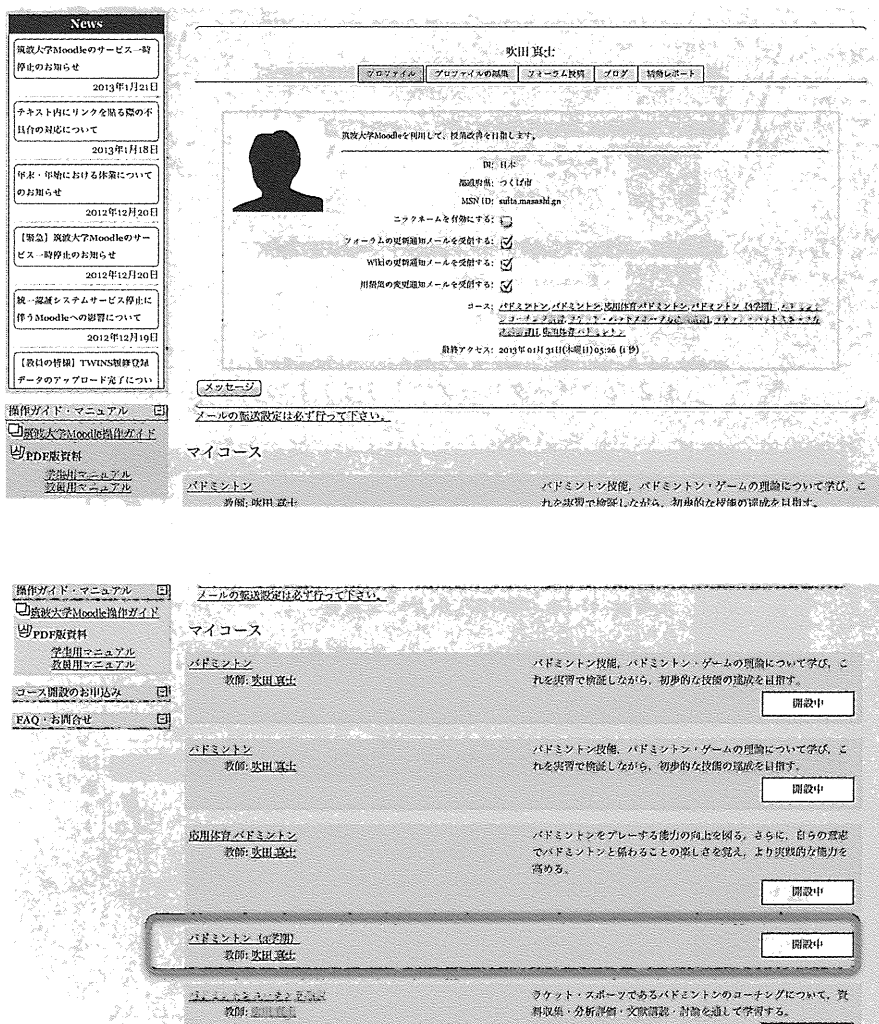


図 1 つづき

ク、必要事項を記入し、フォームを送信することで、担当者から返信がある。それほど難しい作業ではないが、この点については、今後の改善が求められるところであろう。

マイコース内の各コースボタンには、我々が教師として登録されているコースに限り、(初期状態では)「未開設」ボタンが表示されている。そこをクリックすると、コース設定の編集ができる。「コース利用」セレクトメニューで「学生はこのコースを利用できる」を選択し、続いて「変更を保存する」ボタンをクリック、

「変更を保存する」ボタンをクリックすることで、そのコースが筑波大学 moodle 上に開設され、すでにこのコースに登録されている学生の「マイコース」に表示される。

### (3) コース画面の編集・資料の追加等

コース名をクリック<バドミントン(3学期)>すると、その授業の「コース画面」に移動することができる。

「ウィークリーアウトライン」として、「12/7-12/13の授業」といった形で、編集画

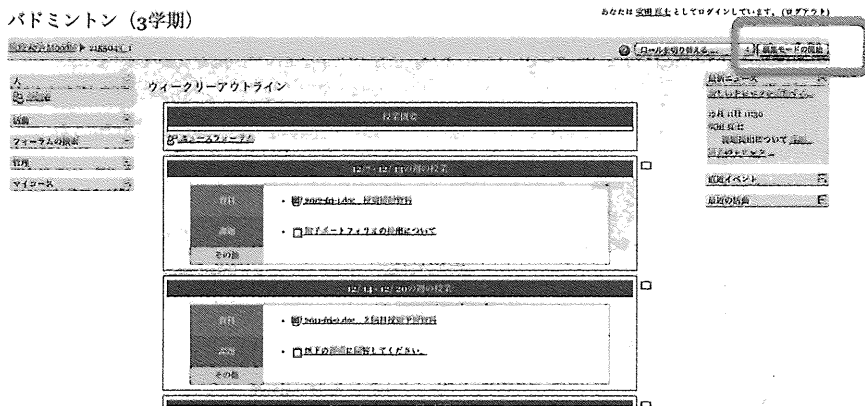


図2 「ウィークリーアウトライン」の表示



図3 「資料・課題の追加」に関して

面が現れる。画面右上の「編集モードの開始」ボタンをクリックする。ここで、授業概要を書き込んだり、毎回のレポート課題を提示したりできる。

## 2) 課題の提示

課題を提示する場合は、「課題」にある「追加/Add」ボタンをクリックする(図3)。そこで必要事項を記入し、「OK」ボタンをクリックするだけで、画面上に表示される。

## 3) 「資料」の揭示

「ドキュメント・ボタン」をクリック(図4)すると、「ドキュメント・パネル」が開閉する。ドキュメント・パネルは、いわば、このコースで利用する「ファイル置場」である。

「ファイルを選択する」をクリック(図5)し、揭示したい資料を探し、選択するとドキュメント・パネルに表示される(ただし、ここではアルファベット表記の資料のみ可能)。

最後に、「資料」欄にドラッグする。

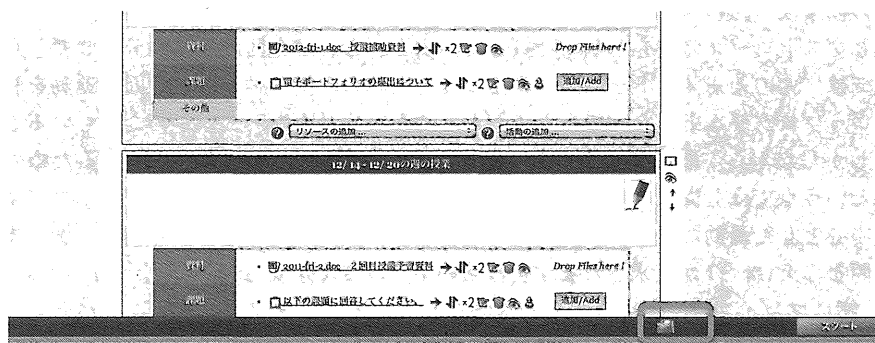


図4 ドキュメント・ボタンについて

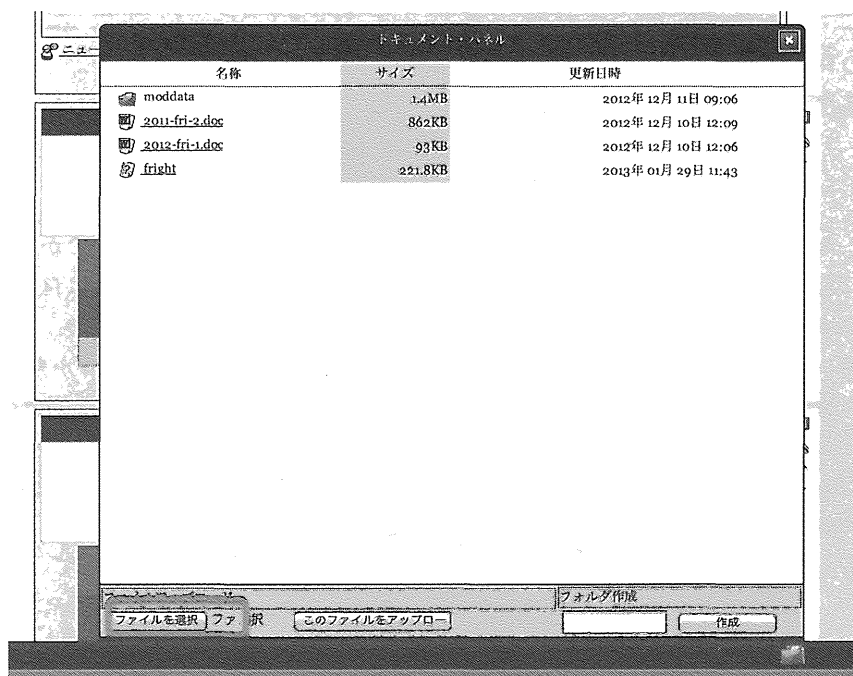


図5 「ファイルを選択する」ボタン

なお、ファイル名に関しては、半角英数字のみしか現時点では受け付けられないため、注意が必要である（一度アップしてしまえば、事後作業で名前の編集等は可能である）。

#### 4) その他

ここまで、「課題の提示」と「資料の追加」について説明した。上記以外については、「筑波大学教育クラウド室」か、「筑波大学 Moodle 操作マニュアル（教員用）」を参照されたい。

### 3. 授業での「Moodle」の活用例

金曜3限3学期の1年次基礎体育において、実際に「Moodle」を活用して授業を展開してみた。

第1回目の授業では、授業後に、参考資料の添付と共に課題を提示した。40名中29名から回答が得られた。提出期限は1週間に設定されているが、教員側の操作で変更は出来る。

第2回目の授業に対しては、予習資料を提示

#### 第6回目の授業後の課題

～回旋運動をストロークの中心として、打ってみよう。これが今回の授業のテーマでした。理論背景としては、力のモーメントを最大にすること。上腕の内旋運動と前腕の回内運動を利用して打つ、というプログラムでした。できた！とか、こんな感じかな、とつかめた人もいられるかもしれません。しかしながら、難しさは当然あったと思います。（シャトルをヒットするための）運動への習熟という点では、従来の打ち方：おそらく多くの皆さんがウエスタングリップによる梶子編成型を中心とした運動だと思いがやりやすいと思うからです。技能獲得に至るまでには多くの時間と作業（練習）が要求されます。授業の中だけでは達成・到達できないかもしれません。「相手と一緒にプレイする」ということを大切にしているスポーツスピリッツ：バドミントンの中で、この課題に多くの時間を割いて取り組むことは避けるべきと考えています。理論として覚え、対人で打ち合う中に、実践してみてください。→ 感じたことを簡潔に書いてください。

#### 学生からのレポートの例

金曜3限体育 2013/1/15

### バドミントンレポート4 (1/11)

比較文化学類 ○○

今まで、スポーツの中で今回のような理論的な説明を受けたことはなかったのだが、その説得力の強さに驚いた。自分のからだの仕組みを知り、理論を理解したことで、実際に自分の体を動かす時に具体的なイメージをしやすくなった。ただ、イメージだけではできるものの、それを実現するのは難しかった。確かに3学期の授業の中でできるようになるのは無理があるかもしれない。しかし、回旋運動を意識して練習したとき、シャトルがラケットに当たった瞬間、今まで感じたことのない「重み」を感じた気がした。「当たっている」というのではなく、「打っている」感覚がしたのだ。したがって、残りの授業でこのうち方の習得までは至らなくても、常に意識しておくことで、多少なりとも上達はできるのではないかと思う。

それでも、自分の技術の向上に集中しすぎると、自分の世界にこもってしまって、「スポーツスピリッツ」の理念に反しかねないから、やはり「相手とプレイする」ことを第一に意識して、授業に取り組みたい。

図6 授業後の課題提示と学生のレポート例

した。確認して授業に望んでいた学生は10名程度であった。授業後は同様に課題を提示したところ、40名中29名が回答した。課題は、第6回目の授業までに4回設定した。提出された課題に対しては、web上で採点ができる。すべての平均点も自動的に表示されるようになっている。

参考までに、第6回目の課題とそれに対しての学生からの回答の実例を挙げたい(図6)。

今回 Moodle を活用してみて感じている事は、限られた授業時間以外に、学生に対して改めて言葉を発したり、次の授業までの予習課題を Web 上で容易に提示できたことで、授業の質的あるいは量的保証につながる可能性が大いにあるのではないかと、ということである。今後の課題は多数あるが、学生の主体的な学びの動機付けにつながるよう、改善を図って行きたい。

この報告は、平成24年度 SPERT 研究プロジェクト「大学体育におけるラーニング・ポートフォリオの活用」の助成を受け実施された研究の一部である。

#### 参考資料

- 筑波大学 Moodle 操作マニュアル(教員用):  
筑波大学教育クラウド室: [http://www.moodle.tsukuba.ac.jp/\\_src/sc2052/teachermanual\\_ja3.pdf](http://www.moodle.tsukuba.ac.jp/_src/sc2052/teachermanual_ja3.pdf)
- 久保研二(2012): 授業におけるポートフォリオの活用－学生と教員の振り返りに着目して－: 大学教育学会第34回大会発表要集録: 146-147
- 田中正弘(2012): ラーニング・ポートフォリオを活用した授業改善: 大学教育学会第34回大会発表要集録: 48-149